

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 28 年 8 月 29 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3472700297		
法人名	医療法人みやうち		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	廿日市市宮内字佐原田4207番地の4 (電話) 0829-38-0793		
自己評価作成日	平成28年7月30日	評価結果市町受理日	

※ 12

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3472700297-00&PrefCd=34&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成28年8月25日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

近年高齢化による自立レベル低下により、ご本人の自由に楽しめる生活が出来なくなって行く現状の中、理念の見直しを行いました。皆さん全員が出来る事とを考え、「笑顔で楽しく安心できる場所」方針：笑いの会話を毎日取り入れます。毎日一緒に歌を歌います。四季折々の食事で食卓を囲みます。行事を楽しみ季節を感じて頂きます、と改め過ぎて頂いています。ここ最近、長くご利用されて居られる方の状態の悪化、自立レベル低下が見られる様になって来ました。当然の事ながら、医療の必要性や要介護の重度化が見られます。併設の病院及び職員間の連携を取り、ご家族との関わりを一段と強く持つ様に努力しています。「家族の会」も継続しており、今後ともご家族の皆様の声を聞き、共有と協力により一緒に利用者様を支えて行く事を続けます。また法人グループとの連携により、ご本人、ご家族の想いに沿う取り組みを継続して行きます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

平成12年7月開設のグループホームである。事業所は高速道路のインターチェンジも近く、幹線道路から一步入った場所に立地し、交通至便である。また、経営母体の医療法人や併設施設が隣接し、医療面や緊急時の人員体制でバックアップを得られているほか、付近は緑も豊かで畑もあり、居心地の良い環境、雰囲気となっている。
事業所は特に家族との関係構築に力を入れており、2か月に1回開催される家族の会や、イベントや行事の開催などを通じて「家族と一緒にケアする」を実践している。その結果、家族の面会も多く、近隣住民やボランティアの協力も得られるなど、多くの人が気軽に訪れることのできる環境ができており、これからも家族と共に歩んでいく姿勢がみられる事業所である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	利用者様の状態に伴い理念を変更し、方針を掲げ、ご自身の出来る事に改め、事務所の分かりやすい場所に掲示し、毎朝朝礼で唱和・共有し、1日1つでも職員一人ひとりができる事を心掛け、日々取り組んでいる。	「家族で楽しく安心できる場所」を構築するために、笑いのある会話を毎日の生活に取り入れたり、一緒に歌をうたう、四季折々の食事や行事で皆で楽しんで過ごすなどの方針を掲げて、理念の実現に向けて、毎朝のミーティングで確認し合い、事業所全体で取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	法人で開催する健康フェアにおいて、地域の方との交流や地域のボランティアの方の訪問等で交流を図っている。また地域の美容院を利用し、美容院の方の協力も得て、美容院の方に工夫して頂き、なじみの関係を作っている。	日頃から法人ぐるみで地域との交流があり、地域住民からの職員への声掛け、ボランティアの受け入れ、近所の美容院が認知症の発症を理解、認識したうえで受け入れて整容するなどを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	利用者のご家族のみの集まりにおいて、認知症についての質問を受け、皆での話し合いや、ボランティアに来られた方や見学に来られる方の相談を受けることがある。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現場での転倒や事故の報告・対応・状況の報告を常に行い、家族の質問や希望を受け、職員に報告し、改善や向上に活かしている。家族が遠方の方や参加の出来ない方へは、電話や資料の送付、面会時の手渡しにより、共有している。	運営推進会議は家族会も兼ねており、家族の意見も活発に出ており、施設の理解を深めることにつながっている。家族から率直な意見をもらうことにより、事業所運営への理解と協力を得られている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議へ参加して頂き、ご家族やご本人の声を聞いて頂いている。また、行事にも時には参加して頂き、関係作りを進めている。	市の高齢、介護関係課や地域包括支援センターに運営推進会議への参加協力を求め、土曜日であっても参加が得られるなど、関係を密にし、協力を努めている。家族に対しても、制度に関する説明をしてもらえなど、市と連携や関係構築を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>玄関・裏口・自室は普通の家庭の施錠であり、ご自分でも開ける事ができ、出られる事があっても無理に止めず、付添っている。ベット上で自ら動かれる危険な方には、マット下にセンサーコールを置き、動きを察知し、見守りをしている。</p>	<p>法人内での研修や、事業所独自の研修によって、身体拘束防止のための理解を深め、介助方法を含めた話し合いが行われている。法人内に身体拘束委員会があり、そこでも対応方法について、日々話し合いが行われている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>外部・内部研修へ参加し、法人内ではサービス向上委員会では他部署の職員の声を受け止め、身体的・精神的な虐待のないよう、職員間に伝え、努めて取り組んでいる。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>現在、制度を利用されている方はいないが、2階に制度利用を必要とされる1名がおられることから、勉強する機会があり、ご家族へも制度を伝えている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>ホーム長・相談員より、十分な説明を行う事としている。また、改定等についても、ミニ家族会の際、その都度説明・質問を受け、確認を取っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見箱の設置や、アンケートを実施している。また運営推進会議・ミニ家族会で意見や要望をお聴きする場を設け、それらを基に事業所内で話し合い、運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議や家族会の場において、事業所の運営に関する疑問等について意見を求め、積極的な意見が得られているほか、日頃から家族の来訪時に意見を聴くなどし、事業所の運営への反映がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々のカンファレンスや職員会議などで話し合える機会を設け、行事・日常業務について検討を行い、運営に反映している。	日頃から、担当する利用者に関する意見を管理者が聞いているほか、職員からの具体的な提案もある。また、人事考課や面談によって意見を聞く機会もある。その結果、洗面台など設備の改善提案など、職員から積極的な改善案が出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	給与水準は人事考課によって決められており、個人の努力や実績が給与に反映されている。個人の能力向上による、法人全体のサービスのレベルアップを目指している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内では院内研修が定期的に行われている。法人外の研修に参加した時はカンファレンスなどで報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	定期的に行われているホーム長会議を通して、他のグループホームとの情報交換を行い、職員へ報告し、質の向上に繋げている。同市の管理者との情報交換も時々行なっている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	暫定プランを作成する時、困っている事や不安な事など、本人や家族よりお聴きし、職員みんなで声をかけ、安心して生活していただけるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>利用前にホーム長・相談員と共に、在宅や利用されている施設への訪問、又は現在の身体状況や生活面で困っている事や不安な事などをお聴きし、把握しながらアドバイスをご利用後も継続している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>ご利用前にご本人や家族と話をすることで、現在必要としているものは何かを把握して対応しているが、初期の段階では他のサービスの利用者はほぼいない。現在は、状態変化により、訪問マッサージ利用の方がいる。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>美容院・買い物の同行・お花見やドライブと一緒に外出している。作業や家事があまり出来なくなった現状の中、料理の方法を教えて頂いたり、会話のなかで生活面での色々な知識を教えて頂き、一緒に支え合っている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>ミニ家族会での意見交換や、大家族で交流して頂き、意見や要望を聞いている。ご本人の様子を、家族会や日々の面会時に細かくお伝えし、共に支え合う関係作りをしている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>なじみのある知人や友人との面会時は、自室や居間でゆっくり話をして頂いている。地域のなじみの理髪店に、家族と共に出かけられる方もいる。</p>	<p>昔からの利用者の友人・知人の面会もあるほか、なじみの理髪店に行くようにしている。また、婦人会への参加も継続的に行えるようにしているなど、本人がこれまで大切にしてきた、なじみの関係を継続できるような支援がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	居間でご一緒される事が多いが、本人同士が会話をされる事は少なく、職員が間に入り会話が進むようにしている。お祝い事の時は日頃以上に発語が多い。体調が悪くなられた方に対して、退院時等は優しい言葉がけがされ、利用者同士の関わりが保たれている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	過去には、病院に入院された方の家族がミニ家族会に参加されたり、訪問もあったが、ここ2年くらいは退去された方がいないことから、関係維持の取組みは行っていない。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いや意向が表せる方が少なくなってきたのが現状であるが、日々の会話や行動の中で、ご本人の思いを把握するようにしている。また困った事や気づいた事は、日々のカンファレンスなどで話し合うようにしている。	事業所ではセンター方式のケアプランを作成しているほか、本人の情報や生活歴も踏まえ、家族とも打ち合わせ、本人の意向も勘案し、思いを聞き出すようにしている。時間をかけて話を聞き出すことで、本人本位に思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご本人や家族の情報を聴き取り、フェイスシート等で故郷の話・家族の話をお聴きする等で、把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の状態は、ケアプランに沿って生活行動記録に記入し、職員全員が見られるようになっていく。またカンファレンスノートにも要点を記入し、見られるようになっていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>可能な場合は直接に本人から思い等お聴きし、また家族の希望を優先し、機能低下を少しでも防げる様、センター方式を取り入れ、看護師・相談員の意見を取り入れながらカンファレンスを行い介護計画を作成している。また状態の変化時・更新時も、家族の意見を取り入れながらモニタリングを行い、計画を見直している。</p>	<p>計画案については担当者を含め職員全員で作成し、医師の意見も踏まえ、事業所会議の中で話し合っって策定している。カンファレンスには家族の参加もあり、家族の意見も取り入れるよう、努力がなされている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の様子・工夫などは記録に残し、状態の変化があれば職員間で情報を共有し、話し合い、計画の見直し等に活用している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>併設の病院へ入院後、病院の看護師による訪問指導を受けている。また訪問マッサージも取り入れている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>定期的にボランティアの来訪や、併設の施設の催しの利用等を取り入れている。玄関先で休まれていると、法人内の職員の声掛けで話されたり、近くのなじみの美容室へ行き、生活を楽しまれている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>月1回、併設の野村病院で受診している。体調の変化によっては、ご家族に連絡し、主治医が説明し、また状態によっては他院への紹介や、家族の希望で他院で受診している。</p>	<p>隣接する医療法人への受診を介助することで、利用者の健康状態を管理、維持しているほか、眼科や整形外科、歯科などの専門科には、家族の協力により、受診ができるような支援が行われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>ほぼ毎日（日・水除く）連携している看護師にご利用者の様子を伝えている。体調の変化を伝え、相談し、受診できるよう支援している。また、週2回の看護職員も待機しており、様子を伝え相談している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>併設の病院に入院された際は、入院病棟と連絡を取り合い、相談をしている。日々の様子を見てもらうため、病棟課長が訪れ、食事を共にしたり、入院中はスタッフが面会へ行くなど、関係づくりに努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>終末期についてはミニ家族会やケアプラン作成時、家族の意向や入居者様との会話の中、ご本人の気持ちを聞き取れるような会話をし、医師・看護師・職員が連携を取り合っている。</p>	<p>契約時に説明をしているほか、実際に重度化した場合には医師との面談を支援し、家族とのやり取りを記録に残すようにしている。実際に看取りのケースも多く、隣接する病院とも連携しながら、本人の身体状況が許す限り、住み慣れた事業所内で過ごせるような支援がなされている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>緊急時対応マニュアルがあり、すみやかに対応できる様にしている。また、院内研修も定期的に行い、急変が起こった後には常に職員間で報告をし、今後に備えた再確認と、対応を身に付けている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>法人全体で定期的に月1回程度、火災・地震・水害に備えて、昼夜を想定した、月1回程度、利用者と共に避難訓練を法人で定期的に行い、地域との協力体制も築けている。</p>	<p>避難訓練は毎月行っており、年に1回消防署員を呼んで法人全体の訓練も行っている。隣接する病院を避難場所とし、人員体制の協力も得られるような仕組みが整えられている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	理念の方針にも取り入れ、一人ひとりに合った言葉かけをし、プライバシーを損ねないような対応を職員間でも確認している。特に排泄面に関わる言葉・対応には細心の注意を心掛けている。	排泄介助など、利用者のプライバシーや尊厳が冒されやすい状況にあるときは、ドアを必ず閉めるなどの配慮がなされているほか、トイレ誘導時の声掛けも、周囲に配慮して、大声を出さないなどの対応がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	一つの事を提案するのではなく、洋服の色や、飲み物を選んでいただくなど、自己決定できるよう働きかけている。歩行不安定な方が立ち上がり、1人でどこかに行こうとされる時は、行き先を尋ね付き添っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	歩行状態の悪い方が多い中、急ぐような声かけは避け、行きたい所には危険でなければ止めるのではなく、出来る限り付き添い、希望に沿える様に支援している。一人ひとりのペースや思いに合わせて、寄り添う支援を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	化粧のできる方には声かけをし、髪染め、起床時は髪をといていただき、着替えは、選べる方は洋服を選んでいただいている。また、家族となじみの美容院に行かれたりしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事準備の時には、皆さんにメニューの希望を聞いたり、好きな食べ物を聞いて取り入れ、職員も一緒に会話をしながら食事をしている。食後はお膳拭きなど、一緒に片付けをしている。	ユニットごとに職員がメニューを決め、食材の配達サービスを利用しながら、足りないものも買い出しに行くなど、事業所内で利用者の好みや状態に合わせた、柔軟なメニューが組めるように配慮がなされている。定期的に栄養士にチェックしてもらい、栄養の偏りがないように配慮がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事量・水分量は体温板に日々記入し、観察している。褥瘡や、食事量の少ない方はエンシュアや、家族が持って来られた栄養補助飲料を飲んでもらっている。飲み込みが悪く水分確保の出来ない時には、点滴をしている方がいる。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>食後は義歯を外してもらい、できる方はうがい、できない方はお茶を飲んでもらったり、ガーゼで口腔内清掃を行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>排泄の時間・様子を記録紙に記入し、トイレに行ける方は歩行器や車椅子でトイレに行って排泄してもらい、おむつ・パットも本人の尿量にあったものを使用してもらっている。</p>	<p>排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し、利用者が重度化することにより、パットやオムツの利用者がいるものの、できるだけ排泄の自立支援に向けた工夫がなされている。その結果、事業所内に臭いはなく、すがすがしい空気が流れている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>便秘予防のため、水分補給や食事の際に食材を工夫して提供し、予防につとめている。必要時は下剤を服用している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>基本は希望日、時に入って頂くよう努めているが、現在1人で入浴して楽しめる方がいない。入浴を拒否される方も多く、職員が工夫して声かけし、なんとか入浴してもらっている。</p>	<p>利用者は週2～3回入浴することができ、入浴を嫌う利用者にも、職員による声掛けにより、利用者が安心して入浴できるような配慮がなされている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>傾眠状態や足に浮腫がある方は、 本人の希望を聞いて、無理なく 自室で休んでもらっている。ま た、日光浴や散歩等で安眠につ なげている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>服薬は誤薬防止のため、本人の 名前・日付を声だし確認し、他 職員とともにダブルチェックを 行い、防止に努めている。薬の 用法・用量もファイルし、すぐ に確認できるようにしてある。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>洗濯たたみ・皿洗い・お膳拭き と、自宅におられたときにされ ていた事を無理のない範囲でお 願いしているが、現在はお膳拭 きや豆のスジ取りと、座つての 作業も少なくなっている。歌や 季節ごとの行事を楽しみ、季節 を感じてもらっている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。</p>	<p>気候や天気の良い日には、近所 を散歩したり、花見や買い物等 、ドライブに行き楽しんで過ごし てもらっている。</p>	<p>気候を見極めたうえで、少人数 ずつドライブに出かけ、近くのサ ービスエリアや花見などに出か けている。天気の良い時など、 近隣への散歩も行われており、 家族同伴でコーヒー店や銭湯な どへの外出も行われている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>お金は、本人が所持できる方は 必要な金額を家族より預かり 、本人に渡して管理してもらっ ている。自動販売機へジュース を一緒に買いに行ったり、一緒 に外出し、買い物ができるよう 支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>手紙の返事を書ける方はいないが、手紙やハガキが届いた時は、本人の前で読んで聞いてもらっている。自ら電話をかけられる方はいないが、かかってきた電話には、本人が通話ができるようお手伝いしている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居間は、季節ごとに手作りのカレンダーを掲示し、日付や季節がわかりやすいよう工夫している。室内の換気や温度・湿度計を設置している。必要時はエアコンも使用している。</p>	<p>事業所入口に入ってからすぐに掲示板があり、日頃の様子や外出先での写真が掲示されているほか、リビングからは中庭が望めて、2階のエレベーター前にはちょっとしたくつろぎスペースが設けられているなど、利用者や家族がくつろげるような環境が作られている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>テレビをみたり、歌をうたったりするなど本人のペースで自由に生活してもらっている。玄関前ベンチで日向ぼっこをされ、外気浴を楽しまれている方もいる。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>本人が自宅で使用していた家具を自室においている。家族との写真や手紙を部屋に飾り、安心して生活してもらっている。自室で休まれる時間が多い方には音楽を流し、居心地よく過ごして頂いている。</p>	<p>利用者がなじみの家具を持ち込みできるほか、照明はLEDにするなど、明るくなるような配慮がなされている。また、居室には必ず洗面台を設置し、車いすも利用しやすいような設計にしているなど、清潔が保たれやすく、居心地のよい居室の配慮がなされている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>床はバリアフリーで、廊下と自室の段差はない。歩行器を使用してフロアを自力で歩かれている方には、歩行器を忘れて歩かれることもあるため、見守りや声かけを行っている。「トイレ」や「○○様」と表示して、居場所等が確認できるようにしている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームひまわり

作成日 平成28年9月24日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	申し送りの徹底	報告・連絡・相談を怠らずチームワークの確立	<ul style="list-style-type: none">・気になる事は口に出す・分からない事は確認する・あやふやなままにしない・職員間の声掛けを忘れない	
2	12	ご家族とのコミュニケーション	その人らしい暮らしを送って頂ける支援	<ul style="list-style-type: none">・ご本人の状態を把握する・日々の様子を伝える・ご家族の意向を聞く・目標を共有する	
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。